

## 明日に吹く風



第27号



夏休みも後半。もうすぐ新学期が始まりますね♪皆さんは、楽しい夏休みを過ごせましたか？まだまだ残暑も厳しいですが、涼しい図書館で優雅な読書タイムを過ごすのも良いかと思えます！夏の暑さを吹き消すような怖い本もそろっていますので、読んでみてはいかがでしょうか。今年の夏も最後まで楽しく過ごしてくださいね。

## \*図書館サポーター推薦図書・DVD\*

今月も、図書館サポーターズがオススメする図書やDVDを紹介します！書評には、それぞれ請求記号と配置場所が書いてありますので、資料を探す際の参考にして下さい。

## ●『スペース・バディー』【DVD】ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン

《あらすじ》

子犬を飼っている子供五人は、遠足で宇宙センターへ行くことに。子犬達もこっそりバスに乗り宇宙センターへ行ってしまふ。この日は、最新の宇宙船を飛ばす日だったのだが子犬達はそれに乗って宇宙へ行ってしまう。子犬達の運命は!?無事飼い主の元へ戻って来られるのか!?

《感想》

この作品ははじめから最後まで、とにかくドキドキワクワクですが、子犬達の勇敢な姿と可愛らしさに目が話せません。子犬達がどんな風にどんな人や犬に出会うかも、見所で最後には感動し心あたたまる作品です。ディズニーなので子供から大人まで楽しく見られる作品です。犬が苦手な人でもきっと可愛く見られるかも。もちろん犬好きな人にもオススメの作品です♪(N.K)



## ●『ネトゲ廃人』(007.3||A92)【B1 閲覧室和書】

芦崎 治 著 リーダーズノート

皆さんは、”ネトゲ廃人”という言葉を知っていますか？

本のタイトルにもなっているこの言葉は、いわゆるネットゲーム（またはオンラインゲーム）に過度にのめりこみ、現実社会から逸脱した者、あるいは社会に適応できなくなった人々を指す言葉でもあります。この本の中には、そんなネットゲームにのめりこんだことがきっかけで様々な体験をすることになった人々に、著者がインタビューするという形で彼らがどのような生活を送っているのか、といった体験談が載せられています。

一つ一つのエピソードが大変興味深いのですが、わたしは特に第1章の「ネットゲームに日々を捧げた女神たち」が衝撃的で、印象に残っています。



ネットゲームに興味がある、これからやってみたい！と考えている人は、ぜひ一度読んでみて下さい。(A.U)

●『アバター』 (913.6|||Y19)【1F 閲覧室話題の図書】

山田 悠介 著 角川書店

私は今回、大ヒット映画！・・・の方ではなく、山田悠介著の『アバター』を紹介したいと思います。山田悠介といえば、『リアル鬼ごっこ』や『親指探し』などが有名な現代ホラー作家です。今年の夏は特に暑い日が続いていますので、ひやりとさせる本を読みたいと思い、この作品を手にとりました。

この作品は、SNSサイトのアバターをテーマに流行にはまる若者を、生々しく描いた作品です。SNSサイト“アバQ”のアバターが社会現象にまでなるほど人気を博してしている世界で、地味で目立たない女子高生の阿武隈川道子は、同じクラスに女王として君臨している阿波野妙子にSNSサイト“アバQ”に入会させられます。最初はいやいやながら入会した道子でしたが、アバターを着飾ることにどんどんのめりこんでいき、ついには犯罪に手をだすまでに落ちていきます。

普通の日常から徐々に非日常になっていく構成が、恐怖を誘います。ホラーといっても幽霊やお化けといった怖さではなく、人間の欲の深さに焦点を当てた怖さなので、怪奇現象が苦手な方も読めると思います。皆さんも今年の夏は、ホラー小説で涼を取ってはいかがでしょうか？(S.K)

\* | C先生と図書館 ～立木 徹先生～\*

その1冊が深く、広い世界を開いてくれた

何の気なしに、今まで私は本とどう関わってきたのだろうかと自問自答してみました。すると、気分にかかせていろいろな本を読んだけれど、「楽しかったなー、幸せだったなー」という思いがこみ上げてきたのです。若いときはしばしば神田の古本屋街や三省堂などの大型書店をぶらついて、これほと思う本を買いました。もちろんそれだけで満足して、読まずに終わった本が多数あります。数年前、今の研究室に引っ越しをする際、読みそうもない本と「さよなら」をしたのですが、少し悲しい気分になったのを覚えています。

印象が強かった本は何だろうか…、と読書の跡をさらに思いめぐらしていると、なぜか谷崎潤一郎の名前が出てきました。彼の小説を読んだ時、体がムズムズするような妖艶さに衝撃を受け、それがトラウマのようになって心の深層に残っているのかもしれない。もちろんこういう作品は教科書には掲載されていません。性的なシーンがちりばめられているので、教科書編者は生徒の目に触れるのを恐れたのでしょうか。性と言え、私が小学6年の頃に2歳年上の女の子が『千夜一夜物語』の本を持っていて、私がそれを見つけて触れようとすると、「読んじゃダメ！」と強く叱責されたことを思い出しました。性と暴力と死は常にタブーなのでしょう。

一時は寺山修司のエッセイ、井上ひさしの短編小説、五味太郎の絵本やエッセイにも夢中になりました。寺山修司の本は毒があって刺激的でしたし、井上ひさしの本にはユーモアがあったことを覚えています。どの著者の本だったか忘れましたが、読んでいて体に電気が走ったように感じたこともあります。そんなことがあるとは信じられないでしょうが、そうなのです。

ひとたびある分野に興味を持ち始めると、寝ても覚めてもそればかりのことを考えてしまうクセがあるせいか、集中的に関係する本を買ってしまう傾向があります。今はインターネットのアマゾンで本を調べると、関連する本がどんどん出てくるので、ついつい多く買ってしまふのが嬉しい悩み(?)です。

3年ほど前にも膜下出血で手術を受け、臨死体験をしたのをきっかけに興味の領域が大きく変わってきました。退院して半年ほど経ったある晩、「憎しみと愛はつながっているのでは」という夢を見ました。インターネットで検索してみると、そこにフロイトと並んで、刷り込みで有名なローレンツの名前が出ていたのです。びっくりです。それではというわけで、ローレンツの『攻撃』を読みました。いたく感激して、ローレンツのほとんどの著作を読みきりました。さらに、そこからずーっと読み進めてきて、今まさに『愛はなぜ終るのか』、『わたしが死について語るなら』という本を読もうとしているところです。私の読書の旅を眺めてみると、なんとも不思議で心地よい「ゆれ」が感じられるのです。

ああ、そうそう、大事なことを忘れていました。本を読むだけではなく、自分でおもしろい本を執筆しなく

ては!